

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	270600570
法人名	有限会社 とわだサンライフ企画
事業所名	沢田のグループホーム 和っふる
所在地 (電話番号)	〒034-0302 青森県十和田市沢田字田屋10-4 (電話) 0176-73-2020

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年12月6日	評価確定日	平成21年1月20日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 1月 26日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	3,000~冬期12,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	66 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	十和田第一病院、佐々木歯科クリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>通りに面した大きな建物の裏手にあり目立たないながらも、正面に立つとそれとわかる大きな屋根のある玄関は、外側の戸が開け放たれており、季節の鉢植えが出迎えてくれる。ホーム内は、木のぬくもりと、やわらかな日差しと、冷暖房管理の充実で、安心して生活を楽しんでいる様子がうかがえる。手芸など思い思いの活動に寄り添う職員と利用者の会話と笑顔がほほえましい。日常的に野菜をいただいたり、ボランティアを受けたり、お返しに学童保育の支援をしている等、地域に求められているもの、必要なものとしてつくられたグループホームは、そのまま地域の人々に支えられ頼りにされながら共存している印象をうけた。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>要望や意見・苦情に関して一覧できる書類として、意見要望ノートを作成し、同じ意見を繰り返さないように、確実に改善できるように取り組んでいる。重度化や終末期に向けた方針の共有は、本人や家族の意向を確認しながら、かかりつけ医の助言を受けながら本人にとってのよりよいケアに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で評価の意義を理解し、個々の気づきを活かし、課題や問題点を改善しようと、全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月ごとに定期的開催している。活動報告等や、自己評価や外部評価についても意見交換をし、サービスの向上につなげている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)</p> <p>毎月利用者の状況を手紙で報告すると共に、面会時には、家族の意見や要望等を聴きだすように配慮し、小さなことでも意見や要望として記録に残すと共に、改善にむけて取り組み、信頼関係が継続できるように取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>気軽に挨拶を交わしたり、野菜や漬物をいただいたりする等、日常的に近所づきあいができている。周辺の幼・小・中・高校生・専門学校のボランティアや、福祉体験の受け入をして、高齢者や認知症への理解につなげている。介護予防教室へ職員を派遣したり、地域の行事を一緒に取り組んだりする等、連携がとられている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で、利用者一人ひとりの今の生活を支えるという理念を、全職員で目標として取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時に全員で唱和して理念の共有を図るとともに、月目標を掲げて理念の実践に取り組んでいるも、月目標の記録が未整備である。		話し合い実施している事実を記録することで、さらなる向上につなげる事を期待します。
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	隣近所とは、挨拶はもとより野菜やつけものをいただくなど日常的な交流ができています。地域の行事へも積極的に参加し、地域の一員としての交流もできています。認知症介護予防教室に職員を派遣したり、福祉体験を実施したりして、地域の高齢者の理解を深める普及活動も、自治会や各団体と協力し積極的に取り組んでいます。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価に対する意義を全職員が理解しており、話し合うことでの気づきを活かしながら自己評価を全職員で取り組んでいる。外部評価も具体的な改善として生かす努力がみられる。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所からの報告や、検討事項等2ヶ月ごとに定期的の実施し、サービス向上に活かしている。ご家族全員の参加を促すと共に、参加しやすい時間帯の検討も工夫している。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>今年度より、運営推進会議への参加がみられ、情報の共有が図られているも、直面している運営やサービスの課題解決にむけての協議の機会が少ない。</p>		<p>事業者だけで抱え込まずに、市町村担当者とともに課題解決をはかる取り組みを期待します。</p>
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部より講師を招いて勉強会を開き、全職員で学ぶ機会を設けており、必要時には活用できる体制ができています。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>勉強会やスタッフ会議等で、高齢者虐待防止関連法に関する理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約時には運営者、管理者が立会い、不安や疑問についても確認をとりながら、十分な説明をおこなっている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月お手紙や写真で状況を詳細に報告すると共に、面会時にも、声がけし報告している。緊急時や受診報告状態に変化がみられたとき等はその都度電話で連絡する体制ができています。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時には、積極的に話し合い、意見や要望を伺い、意見要望ノートに記録し、確実に改善にむけての取り組みができるようにしている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、スタッフの異動は馴染みの関係を維持するために、必要最小限におさえるとの理解ができています。職員の写真や名前、役割の紹介をする等、利用者へのダメージを防ぐ配慮ができています。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会ではケアの向上にむけて計画的に実施している。外部研修にもできる範囲で参加し、資料や報告書で、全職員の共有が図られている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の交流で、運動会や勉強会を行い、サービスの質の向上を図る取り組みがみられる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人家族に見学をしていただき、納得しての利用につなげている。入居前に十分なアセスメントをしており、全職員で情報の共有を図っている。当日は歓迎メニューとして本人の好物を提供し、馴染み易いよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の思いや喜びを知ることにつとめ、本人の希望する生活に寄り添うように支援している。編物の得意な方が孫に作品をプレゼントすることで、本人と家族に喜ばれたり、パッチワークの得意な職員と協働で作品をつくり、展示したり、食事の準備を一緒にするなど日常的に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で本人の思いや希望を把握することに努め、センター方式の気持ちシートを作成し、ケアにつなげている。困難な場合には、家族や関係者の情報を得、本人の立場にたち日々の生活からの気づきをもとに検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・主治医・関係者の思いや意見を聴き反映させるとともに、時間を決めて職員全員参加でケアカンファレンスを行っている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化にあわせて、必要に応じた計画の見直しや検討を本人・家族・職員の意見のすりあわせを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買い物などニーズに対して柔軟に対応する事業所であるとの認識があり、本人や家族に寄り添うよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人希望のかかりつけ医を尊重し、継続した受診ができるように支援している。24時間対応可能な協力病院との連携で、緊急時の診察や相談をうけられる体制を整えている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時に終末期について、本人・家族の意向を確認すると共に、グループホームでできることと、できないことの説明をしている。重度化したときは、主治医の助言をうけながら家族と話し合っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会やスタッフ会議で、職員の意識の向上を図ると共に、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や手芸や読書等、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時の状況にあった準備や片付けなど、利用者と協働で行っており、利用者と職員が一緒にテーブルで和やかに食事を楽しんでいる。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイサービスの経験者が多く、午前中に入浴し午後のはんびりしたいという希望にそって支援している。足浴も毎日おこなっており、思い思いの時間や場所に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	思い思いに編物をしたり、本を読んだり、得意分野で一人ひとりの力が発揮できるように、生活歴等をもとに支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって散歩や買い物等に出かけたり、近所の行事に出かけたりするなど戸外にでかける支援を日常的に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修を行い、具体的な行為について確認しあい、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	車道に近い玄関は安全に配慮しタッチ式の自動ドアになっているが、テラスや庭には外気浴や洗濯物を干す等で、自由に外にでられるようにしている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の一人体制の不安解消のために、職員の希望で日中や夜間やおこりうる事態を想定して毎月避難訓練を実施し、緊急事態にそなえるべく体制作りをしている。消防職員のほかに、運営推進委員の参加等地域の人々の協力も得られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎回記録し、摂取量の確認をすると共に、契約をしている外部栄養士の助言をうけて、栄養バランスやカロリーに配慮した献立をたて、必要な量の確保に努めている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルにそって利用者・職員の予防対策の徹底みられるも、外部訪問者への、手洗いうがいの協力依頼が気付きにくい場所にあり希薄に感じられた。		来訪者の予防意識を高めることで、ホーム内の予防効果が高まる取り組みを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳にコタツ、木製の家具やお茶道具の配置等家庭と、かわらない雰囲気作りの工夫がみられ、一人ひとりが好きな場所でくつろいでいる様子がみられた。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具が置かれていたり、家族の写真が飾られていたり、布団を敷いて寝たいという希望にあわせたり、利用者一人ひとりの思いを大切にされた部屋になっている。生活感があり、居心地よく過ごせる工夫が見られた。</p>		

 は、重点項目。